



予算委員会で質問

自由民主党副幹事長・女性局長代理
参議院議員・薬剤師 本田顕子

3月3日（木）に開催された参議院予算委員会において質問の機会をいただきました。

ロシア軍によるウクライナ侵略が継続されている情勢であったため、まず、ウクライナ情勢について質問しました。過去の経験がある日本が平和の大切さを一番知っているのも、平和に向けた対策を政府にお願いし、外務省と経済産業省から答弁をいただきました。

次に、コロナ対策について、3回目のワクチンの接種状況、水際対策の段階的緩和、国内開発医薬品の海外展開への支援策、小中高における公衆衛生教育の必要性、健康危機管理庁の新設について担当省庁に質問しました。ワクチン接種についての答弁の中で、島村大厚労政務官からワクチンの分注などに携わっている薬剤師への感謝の言葉が述べられ、また、公衆衛生教育についての答弁の中で、末松信介文科大臣から学校薬剤師による指導の充実の重要性について発言されたことは、予想していなかった答弁であったため、とてもうれしく受け止めました。

最後に、後発医薬品の安定供給に向けての予算措置などについて後藤茂之厚労大臣に質問しました。2年以上にわたる供給不足に対して現場の薬剤師や薬局から悲鳴の声を聞いていること、令和4年度政府予算案に後発医薬品の使用促進事業と信頼性確保事業が盛り込まれているが、現場の関係者にとって納得できる予算であると考えてよいのかなどを質問しました。後藤大臣からは、予算の内容、品質確保のための調査体制の強化などについて答弁をいただきました。

後発医薬品はもとより、医薬品の安定供給が確保されるよう、引き続き国政の場で声をあげて行くこととしています。



末松信介文部科学大臣



島村大厚生労働大臣政務官